広報展示室 Koho Gallery

第23回

企　画　展

「美人画の変遷－これぞ浮世絵美人画だ－」

美人画は、浮世絵の一分野であり役者絵とともに古くから題材として扱われてきました。美人画が最も華やかに描かれたのは天明・寛政年間（1781 ～ 1800）の錦黄金期で代表的な浮世絵師は鳥文斎栄之、鳥居清長、喜多川歌麿など、いずれも美人画の名手でした。美しい人たちが錦絵に登場し、時代や季節により異なる流行の髪型、服装を着て一般の女性たちに流行をアピールしました。美人画には時代を代表する理想的な女性像が描かれ、鑑賞の対象になっていますが、その鑑賞者は男性ではなく、むしろ女性の方が多かったようです。その理由はどうすれば美人画に描かれているような美しい人に近づけるか、です。美人画に描かれた女性たちが身につけている着物、帯、髪型、櫛、簪などは最先端のファッションでした。あこがれの美人に近づくためには、流行に遅れないようさまざまな美人画の中から自分に合うアイテムを見つけ、自らの姿を美人画に重ね合わせ変身していたようです。

女性の美に対する追求は、いまに始まったことではなく遙か以前から大河の流れのように続きその流れは未来永劫続いてゆくでしょう。

この度はさまざまな浮世絵師が描いた美しい人の世界をご堪能いただければ幸いです。

図の作品「桜下二美人図」は、歌川豊春（1735 ～ 1814）が描いた肉筆画で、錦絵と違い直接依頼主が絵師に注文した作品です。満開の桜花の下で振り袖姿に笠を被った若い女性と手拭いを姉さん被りにした年増の女性が、いまキセルに火を付けているところです。両方の女性が身につけている装飾品や着物の柄と太い帯は当時の流行でしょう。顔は、二人とも鼻筋の通った切れ目でおちょぼ口の当時の典型的な美人です。（ただし簪の数は一般の女性が付ける数より多いので、遊女の見立て絵かもしれません）

歌川豊春「桜下二美人図」

【会期】　８月23日（木）～９月24日（月祝）

【ミュージアム・トーク】

当館学芸員による展示解説

８月25日（土）、９月８日（土）午後１時30分～

那珂川町馬頭広重美術館　学芸員　市川信也

2007はな・花写真展

馬頭広重美術館視聴覚研修室ギャラリーで７月31日～８月12日まで開催されている「2007 はな・花写真展」。

県内の写真愛好家など111人が出品された作品の中から、那珂川町出身のお二方の作品をご紹介します。

ミニギャラリー

神無月の彩　岡　典子さん（北向田）

想い　和泉一雄さん（小川）

No.23　平成19年8月10日号　●編集／企画財政課　☎0287-92-1114　Fax0287-92-1316
●発行／那珂川町役場／栃木県那須郡那珂川町馬頭409　URL http://www.town.tochigi-nakagawa.lg.jp

R100 PRINTED WITH SOY INK
この印刷物は古紙配合率100％の再生紙、植物性大豆インキを使用しております。